

令和元年度第2回加西市立図書館協議会議事録

日 時 令和2年3月24日(火) 15:00～16:30

場 所 アスティアかさい3階 集会室

出席者 委員7名：笹倉剛、藤岡成子、市浦央子、志方正典、大崎あすか、
伊藤浩信、山田薫

教委・図書館3名：本玉教育部長、菅野館長、伊藤館長補佐

欠席者 松本孝美、松尾弥生、東出一浩

1. 開会 伊藤館長補佐が開会を伝えた。(15:00)

2. 挨拶

会長挨拶

・新型コロナウイルスの影響で、いろいろ生活面で大変な思いをされていると思うが、今日はそういった中で、図書館協議会を開催するという事になったが、加西市立図書館のためにぜひ前向きな意見を出してもらいたいと思う。

教育部長挨拶

・出席のお礼

・図書館におけるコロナ対策についてお話する。2月27日の夕刻、突然安倍首相から、全国一斉の学校臨時休業の要請があり、加西市では、3月3日から15日まで小中特別支援学校を臨時休業とし、子ども達には不要不急の外出を避けるように指示を出している。この学校の臨時休業については、本日まで延長をしている。これを受けて図書館では、小中高の年代に当たる18歳未満の入場制限を実施するとともに、イベントとして予定していた「としよかん映画会」「おはなし会」「えほんのひろば」について不特定多数の方が集まるイベントであるので延期または中止とした。また、隣接する福崎町で、新型コロナウイルスに感染した患者が発生したことで、3月6日からは、貸出返却のみの利用として本日に至っている。近隣では、休館している図書館もあるが、来館者の感染予防対策に万全を期し開館を継続していく。

・近年スマートフォンなどが普及し、ネットや動画など余暇を楽しむツールが増加し、本離れ、読書離れが進んでいると言われている。当図書館においても、貸出冊数はさほど変動はないものの、来館者が年々少しずつ減少している状況である。この建物のアスティアかさいは、平成15年3月にオープンしてから17年が経過したが、商業複合施設として建物全体の活性化が望まれる状況である。

3. 議 事

伊藤館長補佐から、これからの議事の進行を笹倉会長に依頼した。

(1) 令和元年度加西市立図書館利用状況と蔵書点検結果について(菅野館長説明)

委 員：加西市立図書館の図書資料の除籍基準は、市民に明確に公表されているか。

事務局：図書館ホームページで公表している。

委員：書籍は、税金で購入したものなので図書館には公表する責任がある。

委員：登録者数が気になるが、市内登録者数の市民全体に対する割合は出しているか。

事務局：加西市民が約4万4千人として約28%である。

委員：この登録者数をどう上げるかという議論されているが、多い図書館では、35%とか4割近い図書館もある。市民の関心をどう広めていくかという時に1つの判断基準になる。

(2) 館内設備修繕と来年度空調設備改修工事について (伊藤館長補佐説明)

委員：空調を変えるのは初めてか。

事務局：部分的に故障が続き、その都度修繕を行ないその箇所だけを直していたが、開館から17年が経過して故障しても部品がもう手に入らないということもあり、図書館、地域交流センター、ハローワークと合わせて同時期に空調設備改修工事をする。

委員：図書館の休館時期はわかっているのか。

事務局：まだ、業者も決定していないが、10月～11月に3階4階に分けて順番に休館し、どちらかは開館できる状態で工事をする予定である。しかし、コロナウィルスの影響で部品が入って来ない可能性があり、予定がずれ込むかもしれない。

(3) 子ども読書活動推進計画(第三次)のスケジュール修正と、アンケート集計結果について (菅野館長説明)

委員：県の第一次計画策定の時に県立図書館職員であったので質問を受けていた。そこで大きく私の意見と県や国の意見が違ったのは人の問題だ。国会で学校司書の予算が否決された。神戸市は、毎年40名ずつ学校司書が入り、かなり学校は変わった。第四次は、予算がないため出来ないと言われた。姫路市も学校司書を40名か45名ずつ長年入れている。人の問題は非常に大きいと思う。

例えば、田舎でも出雲の小中学校の学校図書館はとても活発である。最初から12学級以下でも司書を置いたり人口2万人位の所でもすごい図書館を持っている。出雲市の小学校は学校司書が入っていて本を読む内容や質が全然違う。推薦図書から違うというか読みこなしている。休み時間にもたくさん図書館に来る。読書の奥深さを知っているからこそ図書館を利用するのだと思う。石川県の学校は、昼休みに中学校の図書館に300人が来る。加西市の図書館もイベントを頑張っているのになかなか来館が増えない。また、学校の先生も忙しい。そういう時どうすればいいか。人の問題が大きくあるのではないか。予算を上げてだめでも学校図書館司書の専門の人が必要だと思う。子ども達の身体を見る養護の先生がいるのに、子ども達の本の相談相手とか心の楽しみを味わせてくれる司書がないというのは本当に残念だと思う。

日本一と言われる山形県の学校図書館は7時半になったらいっぱい子どもたちが学校図書館に来る。校門が開くとざあっと子ども達が山なりになって本を借りに行く。何で朝早く来るのか聞くと、「いい本が借りられてしまうから」と言う。意識が違う。

秋田県でも、やはり図書館も学校図書館もいい。学力がなぜ日本一かわかった。学校の子どもの読む力、表現力などが、読書で培われているなど思った。

神戸市も今変わりつつあるが加西市の図書館はこんなに頑張っているのに、学校とのパイプがもう一つうまくいかない原因はどこにあるのかということを考えることが大事ではないかと思う。

また、アンケートでは、読書が好きな人が56%いる。しかし、問題なのは、読書をおもしろくないと思っている子が多い。読書のキーワードは楽しいということだと思ふ。楽しい気持ちを味わっていない。図書館から出前講座に行っているが受け入れ側なので限界があると思ふ。先進的な事例に学び、加西市の子ども達に学ぶのが楽しい、読むのが楽しいということを図書館や学校図書館から発信できたらと思ふ。

委員：アンケートは、全年齢だったので乳児を持つ保護者にとっては少し内容がわかりづらいという意見も多少あった。4、5歳だと年齢的に絵本によく触れているので大丈夫であったが。

幼保では、読み聞かせを先生が1日に何回かに分けて行ない、子どもが絵本に触れる機会が多い。図書館からも出前講座で読み聞かせや本の貸出に来てもらったり、読み聞かせボランティアにも来てもらっているが、外部から来てもらい普段と違う先生が読むことや園にない本を読んでもらうことで、絵本に対する興味が出て刺激や面白さを感じていると思ふ。

委員：学校でも、毎年学校評価で、本に関するアンケートを実施するが、やはり子どもが家庭で読書をするということが課題に上がる。学校図書館を明るくいい環境にしたり、図書館から展示の仕方や本の紹介の仕方も教えてもらったりしている。また、おすすめ本や新しい本の展示の仕方であったり環境づくりに各校取り組んでいる。

さらに、読書月間の業間休みに読書時間を取り入れたり、週末には必ず本を借りて家に持ち帰ってお家の人に読んだ本の話をしよととか、子どもが本に触れる機会を増やすように取り組んでいる。

ビブリオトークでこんな本が良かったなど本の紹介をし、それを校内放送で流したりして学校全体で取り組んでいる。しかし、一時的で読書習慣にまで発展するには難しい。市の予算をここ数年付けてもらっており古い本を廃棄して、毎年新しい本をたくさん購入し、本の紹介もしているがなかなか読書が習慣化しないことが課題である。

委員：アンケートを見せてもらったが、幼保は本が好きな子が多いが、小学校低学年から本好きな子のパーセンテージが下がってきているのが気になる。本が嫌いの理由で「おもしろくない」「あきてしまう」が多い。この結果を見ただけではここが焦点になるのではと思ふ。

委員：市内小学校・こども園に読み聞かせにボランティアとして行かせてもらっている。学校によっては、子どもから感想文をもらうが、楽しかった、おもしろかったという内容なので基本的には子どもはお話し好きである。目の前におもしろくないという子が1人でも2人でもいたんだと思ってしまうようなアンケート結果で、今後本を読む時にこういう子もいると思ふと本を選んだり、読み聞かせをしたりしようと反省してしまった。

委員：アンケートを見せてもらい、子どもにとってやはり環境の問題が大きいと思ふ。私が、

学校に勤めていた時、学校建設が毎年あった。新しい学校には、玄関から入ったところに図書コーナーがある学校や、玄関入ってすぐの所に図書室という形で作った学校があり、環境的に良かったと思う。また、図書室より身近な学級文庫の方がいいし、子どもは新しい本の方をよく借りていると思った。

家庭で本を読んでいる環境がなかったり、長く本を読むことに慣れていないと、高学年になって長い文章の本や、小さい字のしっかりとした本に向き合った時に読みきりだけの意欲がないとか、読み切れないとおもしろくないという思いになるのかなと思う。また、物質的な環境と、人が携わってくれたり、親とかが一緒に読んでくれたりする家での読書環境が大事だと思う。

委員：10年位前に広島県の原爆ドームの横の小学校で、学校図書館中国四国大会があり訪れたが、3階に5クラス空き教室がありそれを全部学校図書館にしようと言われていた。図書館の3要素というのは人、資料、施設が大きな要素ではないかと思う。

委員：加西市立図書館を良く利用させてもらっているが設備環境がいいと実感している。図書館の入り口の展示コーナーのボードのところにピックアップされる季節に合った展示が見やすく参考になり借りやすい。季節や行事に合ったものが展示されており、チェックして、子どもに読ませたい本や、同じ作者の本を私が工夫して展開させたりして本を借りている。今0歳の子がいてたくさん本を読んでいるが、一番上の小学生の子がありがたいことに本が割と好きなので読んでくれている。そのきっかけはテレビアニメからの発展で気になったみたいだったので、本があるみたいだよと言ったら、最初は絵本からのスタートだったが、文がしっかりした物語が読みたいということで、次に小さな字ではないが、絵より文が多い本を選んで読んでくれるようになった。これからも、メディアの力を借りて本に少しでも興味を持てるように「こういう本があるよ」という発信をしていきたい。

委員：図書館では、子ども達に読んで欲しい本を選書してあり、やはり書店とは違う。幼保へのアンケートで、主にどのように本を入手しますかという問いに「買う」という回答が54%あるが、アメリカでは、本は「借りるものだ」という文化が根付いている。

出雲の小学校の話ですが、読書を一番多くしている学校では、保護者と一緒に本を読む、家読（うちどく）というのを盛んに行っている。廊下に家の人と読んだ本の感想文がずらりと貼ってある。かなり質の高い本を読んでいるし、そういうのを見た時に親子での20分間の読書運動というのがあったが、やはり保護者を学校図書館に取り込むことが大事だと思う。

また、私も「本が嫌い」の理由でおもしろくないからというのが気になった。パーセンテージは少ないがそういう子をどうするかということ、学校や図書館でプロとしてどういったことをすればいいかを持っておくことが大事だと思う。

絵本から読み物に移る時にどうするか、日本の教育ではうまくいっていないのではないかな。兵庫県では唯一西宮市だけが独自のやり方を持っている。西宮市の小学校は集団読書テキストを、本の読み物を1学年40人10タイトル持っている。6学年まで合計すると2,400冊あることになる。それだけの本を集団読書テキストで使っている。本が全く読めない子に先生が4時間も5時間もかけて分厚い本を読み、全く本を読めない

子がおもしろいと思って初めてこんな本を読んだという感想文があるが、そこまでやっているというか、そういう取り組みが裏であってこそ、読み物がおもしろいとか楽しいとかになっている。何か取り組みがいるのではと気づいた。

部長：平成28年度からの施策として、各学校の図書購入費50万円ずつを来年度も予算化している。学校図書の観点から見ると充実してきているのではと思っている。どんな本を購入したら良いか、どのように排架すればいいかということについて、学校図書館コーディネイト事業で、図書館スタッフが学校に出向き、除籍も含めてアドバイスしてきて随分と充実してきたと思う。

また、学校司書を週10時間程度配置できる予算は取っている。ただ、学校の方で授業の補助に入る人に使ってもいいし、教師の事務補助に使っても構わないとしているのだが、実際、学校司書として活用している学校はない状況である。人材が見つからないのかとも思う。

先ほど、読み聞かせボランティアの方からお話があったが、ボランティアが定期的に行かれている学校と、そうではない学校別にアンケートを集計する手段もあるのかなと思う。ボランティアが行かれている学校はほとんど読書好きかもしれない。

委員：現在、学校図書館支援センターというものがあり図書館と学校のつなぎ役として活動している。先ほど50万円と言われたが、本を読む子はあつという間に読んでしまうので少ないと思う。新しい本がたくさん入ってくる図書館からのサポートも大事だと思う。

少し話は変わるが、大学図書館は変化しており、従来のお話をしてはいけない静かな場所と、討論やグループ学習のできるラーニングコモンズという場所にセクションを分けている。図書館もその様な場所があればいいと思う。

事務局：4階展望コーナーには、飲食可能スペースでテーブルがあり、友達同士で話をしながら学習できる場所があり、また隣の地域交流センターにも、グループ学習ができて討論可能なテーブル席はある。

(4) その他

事務局：図書館では、協議会の議事録をホームページに掲載している。本日の協議会の議事録も要約させてもらうが、教育長の決裁後、掲載させていただきたい。

委員：了承。

4. 連絡事項

次回開催は、令和2年6月上旬の予定。

5. 閉会（16：30終了）